

それぞれのチームの次代を担う若手選手たちは、仲間や先輩に支えられながら、よりチームに貢献しようとする。一方、若手選手をはじめとする選手たちが万全の状態でプレイするためには、陰で支える人びとの存在が欠かせない。各チームの期待の若手選手と、支えるスタッフに話を聞いた。

期待の若手 支える「裏方」



アスモ女子卓球部
卓球：日本卓球リーグ1部
馬場 麻裕 選手 (19)
MAYU BABA

5歳のとき、家族で偶然、卓球場のあるレストランに足を運び、店員に誘われて楽しそうに遊ぶ兄の姿を見て、興味を持つたのが卓球を始めたきっかけだ。教室に通うようになり、最初は1時間で4球しか当たらないのが、高校ではインターハイでベスト8に輝くまでに成長し、昨年アスモの女子卓球部に加入した。

アスモは、同部にとって1年ぶりとなるホームマッチの団体戦。勝敗が決まる5番手で登場すると、得点のたびに声を張り上げる姿に会場が沸いた。ホームの大層援を背に勝利を収める鮮烈なデビュー戦を飾り、「試合をしていて、今まで一番楽しかった」と振り返る。持ち味である気合は「誰にも負けない」と自負する。前期は快進撃を続けたが、後期は「勝たなければ」というプレッシャーに苦しんだ。それでも、11月の後期の2部との入れ替え戦で、重圧の掛かる中、奮闘する先輩の姿を見たことが転機となり、12月のプレミアオンの団体戦では敗れたものの「自分のプレーができて、迷いがなくなると自信を付けた。1月の全日本選手権では、女子シングルスに出場する。前回覇者の平野美宇選手が勝ち進むと、ベスト16を決める戦いで対戦することになる。目標とするベスト16入りに向け「プレーが流れて委ねるかもしれないので、臆せず挑戦したい」と意気込む。



写真協力：日本卓球リーグ実業団連盟

裏方

社本有希さん
(主務)

チーム全体を強力サポート

卓球にはオフシーズンがなく、選手は年間を通じて数多くの大会や遠征をこなす。選手が所属する部署への休みの届け出など申請書類の提出や、監督のサポート業務が「主務」の仕事だ。申請書の数は膨大で、サポート業務も多岐にわたる。同卓球部の創成期の選手だった社本さんも「裏方がこんなに大変だとは知らなかった」と苦笑する。自身の職務と卓球部の練習場は徒歩で約10分も掛かるが、今の選手のプレーや表情を見たいと書類を持って足しげく通う。変化が流れるため、目の離せない試合展開が面白みという。「選手自身は必死で分からなくても、外から見ると表情から苦しみなどが伝わるので、相手に付け入る隙を与えない。逆に、ガッツポーズなど闘志を引き出し、相手を生ませる。選手も「個性的で面白い」と注目ポイントを説明する。

闘志前面に観客沸かす